

中野本郷小学校及び桃園第二小学校の校舎建て替え手法について

中野本郷小学校及び桃園第二小学校について、校舎建て替え手法に係る検証結果を基に行った区民との意見交換会での質疑等を踏まえ、建て替え手法の方針について検討を進めてきたところである。

1 校舎建て替え手法に係る区民との意見交換会の実施結果 別添のとおり

2 校舎の建て替え手法及び今後の予定

(1) 中野本郷小学校

校舎の建て替えにおいては、旧向台小学校を仮校舎として使用することとし、仮校舎への通学の負担軽減策及び安全対策について引き続き検討を行う。

あわせて、今後作成する予定の新校舎整備の基本構想・基本計画（案）について区民との意見交換会を実施したうえ、今年度末までに基本構想・基本計画を策定していく。

(2) 桃園第二小学校

昭和区民活動センター等、学校敷地周辺の地域資源の活用等について改めて整理を行いながら、引き続き校舎建て替え手法についての検討を進める。

中野本郷小学校の校舎建て替え手法の検証結果に係る意見交換会等の実施結果について

1 意見交換会の開催日時及び会場、参加人数

日 時	会 場	参加人数
10月30日(水) 18時30分～20時15分	中野本郷小学校	11人
11月 4日(月) 10時～11時30分	中野本郷小学校	11人

2 ホームページでの意見募集

募集期間	件数
10月16日(水)～11月8日(金)	1件

3 意見交換会等で寄せられた主な質問・意見について

	主な質問・意見	区の考え方
①	中野本郷小学校の校舎建て替えにおいて旧向台小学校を仮校舎とすることは、保護者も以前から知っており、旧向台小学校が遠いと感じている人は桃花小学校に初めから通っていると聞く。そんななか、なぜ今現地建て替えを検証したのか。	中野区立小中学校施設整備計画では、旧向台小学校へ移転のうで建て替えることとしているが、現地での建て替えの方法をとれないのかとの意見もあったため、今回、検証を行ったものである。
②	移転建て替えと現地建て替えでは、約4年間の差がある。現地建て替えの場合、高学年だと中学校受験の時期にも重なり、工事で授業に集中できない。また、新入生だと集団生活を学ぶにも落ち着いた環境がつかれない。仮設校舎の脇を重機が通り、特に低学年の児童には危険な環境となる。	仮に仮設校舎を設置して建て替えるとした場合においては、安全確保を徹底していく。
③	現地建て替えの場合、校庭の使用が出来ない期間は、第二中学校や本五ふれあい公園の使用が考えられるかもしれないが、第二中学校の生徒の使用にも影響が出てくるので、中野本郷小学校の児童が優先的に使用できるとは考えられない。	仮校庭等の使用に当たっては、無理が生じる事も想定される。それを踏まえたうで出来る対策を考えていくことになる。
④	デメリットである通学の負担が解決できれば、工期が2年6ヶ月の移転建て替えが良い。現地建て替えでは粉塵などアレルギーによる健康被害もあると思う。	最大限の対策はとるが、それでも完全に粉塵等を防ぐことは不可能である。そういった面においては、旧向台小学校校舎を仮校舎とする方が環境が良いと考えている。

	主な質問・意見	区の考え方
⑤	現地建て替えの場合、体育の授業に支障はでないのか。	体育の授業は、体育館での実施が基本となるが、学習指導要領で定められた体育授業の時間を確保出来るよう学校と調整・工夫していくことになる。
⑥	現地建て替えだと、2年間給食が提供できないとあるが、弁当になるのか。	弁当持参以外の方法も含めて、保護者の意見も聞きながら決めていくことになる。
⑦	現地建て替えの仮設校舎には冷暖房は整備されるのか。	冷暖房は整備する。
⑧	移転建て替えの新校舎工事の期間が2年6ヶ月より短くなる余地はあるのか。	新校舎のプランが決まれば、より正確な工事期間がわかるが、前後することはあっても大幅に変わることはないと考えている。
⑨	工期を短縮するうえで、先に学校棟を建て運用し、その後、地域開放型学校図書館やキッズ・プラザなど付属する棟を建てる方法は、考える余地はあるか。	技術的には可能だが、一体的に整備することの工事の効率性も考えて検討をしている。工期短縮に向けては引き続き検討していきたい。
⑩	子どもが5・6年生の時に中野本郷小学校の工事にあたり、中学校に入学してからは第二中学校の改築工事にあたる。公平性にかけるので工事期間を短くするなど区でも考えて欲しい。	工期については、新校舎に求められる機能や設えを確保するなかで、最大限の工期短縮についても検討していきたいと考えているのでご理解いただきたい。
⑪	現在の校舎より大きい校舎だが、教室を今より大きくする必要はなく、現在の規模で良いと思う。それによって工事期間が短くなるのではないか。	教室の大きさなどについては、十分な教育環境を確保するために必要と考えている。仮に現在の教室と同じ大きさにしたとしても、同じ工事期間は必要となる。
⑫	近隣の桃花小学校は児童が多くなってきているが、新入生の中には、旧向台小学校の位置まで通うのは距離的に難しい子もいるので、そうした場合は優先的に桃花小学校への入学を認めることは出来ないか。	桃花小学校の児童数は増えているため、教室を増やすための準備を進めているところである。なお、優先的な扱いはないが、通学距離等の基準を満たす場合において、指定校変更は可能である。
⑬	旧向台小学校に通学する場合の学童クラブはどうするのか。	中野本郷学童クラブや民間学童クラブを想定している。
⑭	旧向台小学校に通学する場合の学童クラブが、中野本郷学童クラブになった場合、学童クラブまでの付き添いはないのか。	通学路の安全対策と合わせて考えていく。

	主な質問・意見	区の考え方
⑮	旧向台小学校へ通う際の負担軽減策として、スクールバスを出して欲しい。スクールバスは学年やエリアを絞ることなく全学年を対象として欲しい。 また、地下鉄など公共の機関の利用も視野に入れてもらいたい。	スクールバスについては、実施にあたっての課題等の確認も含め、考えていきたい。
⑯	スクールバスを利用できなかったとしても、例えば登校時に保護者が旧向台小学校へ送ったとき、学校が始まるまでの間に預かってもらえるスペースや施設を用意してもらえると、代替案を考えて欲しい。	学校の運営体制等も踏まえながら検討する。
⑰	スクールバスの詳細決定時期は、いつになるのか。	移転前の令和3年度頃になると考えている。
⑱	検討結果がでるのは、いつか。特に桃花小学校に近い入学予定の児童には影響することだと思う。	建て替え手法の決定については、12月の就学通知に間に合わせたいと考えている。安全確保策については、最終的なものでなく一定の方向性を示すものとなると考えている。

桃園第二小学校の校舎建て替え手法の検証結果に係る意見交換会等の実施結果について

1 意見交換会の開催日時及び会場、参加人数

日 時	会 場	参加人数
10月29日(火) 18時30分～21時	桃園第二小学校	43人
11月4日(月) 14時～17時	桃園第二小学校	47人

2 ホームページでの意見募集

募集期間	件数
10月16日(水)～11月8日(金)	12件

3 意見交換会等で寄せられた主な質問・意見について

	主な質問・意見	区の考え方
①	校舎の建て替えにあたり、旧第九中学校への医療機関の誘致を遅らせ、その間、桃園第二小学校の仮校舎として使用できないか。 上高田小学校を仮校舎とすることに、どれだけの保護者が納得しているか、アンケートをとってほしい。	旧第九中学校への医療機関の誘致は、団塊の世代が後期高齢者となる令和7年度に向けた医療体制を構築するものであり、計画通り整備していく。 建て替え手法の検討にあたっては、引き続き保護者等からの意見を聞いていきたい。
②	東側校舎北側の民間敷地を取得するか、昭和区民活動センター、文園児童館などを使い、上高田小学校より近いところに仮校舎を整備できないのか。	東側校舎北側の民間敷地は、区として取得に向けた調整を図ったが取得できなかった。また、仮校舎に必要な規模を踏まえると、上高田小学校よりも近いところに仮校舎を整備することは難しい。
③	上高田小に通わせることになる、通学時間がかかるので指定校変更をしたいと考えている。 指定校変更を希望したとしても、人数が多い白桜小学校、谷戸小学校、平和の森小学校は受け入れられるのか。 その場合、優先して入学をさせてもらえるのか。 また、桃園第二小学校の校舎ができあがった後に戻ることができるのか。	周辺校において児童数は増えており、指定校変更の希望者を受け入れられるように校舎整備についても検討していくが、基本的には学区域内の児童が優先となる。 現在の制度では編入や優先の考え方はない。

	主な質問・意見	区の考え方
④	上高田小学校は、現在の生活圏域ではないため、児童の安全について不安である。上高田小学校へ通う場合、歩道はあるが、道が狭く、電柱がある場所では、車道を歩かざるを得ないこともある。また、西武新宿線の開かずの踏切の影響を受ける児童もたくさんいるだろう。登校時間に間に合わないのではないかと。本当に安全を考えているのか。	通学路の安全対策はしっかりと行う必要がある。西武新宿線については踏切ではなく新井薬師前駅の東側にある跨線橋を活用していく考えである。
⑤	上高田小学校へ通学する場合、柵やガードレール、信号などが無い道を通学路として利用するのか。	通学路の安全対策として、柵やガードレールの設置についても警察等の関係機関と協議し充実させていく。
⑥	上高田小学校へ通学することによる体力の消耗や家庭学習等の時間の減少のほか夏休みの学校プールへの登校等について、教育委員会としてどのように考えているのか。	上高田小学校への通学は、学区域内の最も遠い地点から歩いた場合、小学生の足で45分程度かかるものの通学は可能と考えている。指定校変更の特例についても活用できる。
⑦	上高田小学校へ通う場合、その間の地域の避難所はどうか。	避難所について、避難エリアを別に指定するなど、地域の方のご理解を得て決定していくことになる。
⑧	通学の負担軽減策として、スクールバスが考えられることがわかっていたのになぜ検証していないのか。他の自治体の事例もあるが知らないのか。	スクールバスの運用事例は確認している。スクールバスの検証にあたっては、警察との協議や受託可能な事業者の確保など、現在課題の整理を進めているところである。
⑨	本当に改築が必要か。大規模改修ではいけないのか。	大規模改修により現校舎の使用期間を延長することは可能だが、改修規模によっては学習環境にも大きな影響を及ぼすことや、いずれは改築が必要となることから、大規模改修ではなく、改築を行う計画としたものである。
⑩	現地建て替えの場合の校庭、プールなどが使えない期間の代替案を示して欲しい。	区の施設等を活用した代替案について、引き続き検討していきたい。

	主な質問・意見	区の考え方
⑪	現地建て替え時の仮設校舎で授業を受ける児童への影響を具体的に示してほしい。	粉塵や騒音についてはなるべく出ないように配慮のうえ工事することになるが、振動も含め、防ぐことができないものもある。学校行事などの時は工事を止めるなど臨機応変な対応をしていくことになる。
⑫	地域開放型学校図書館は地域からの要望があって計画に入れているのか。この図書館がなくても、桃園第二小学校はすでに地域に開けた学校であり、近隣には中央図書館があるので、地域開放型図書館が必要であれば、昭和区民活動センターに入れてはどうか。	地域開放型学校図書館は学校図書館と連携した活用を考えており、児童の学習環境の向上のためにも必要な機能である。
⑬	昭和区民活動センターも学校とあわせて整備したらいいのではないか。いろいろな可能性を探ってからあらためて意見交換会を開催してほしい。	学校と昭和区民活動センターの一体的整備については、新校舎の設計を行う前に、検証していきたい。
⑭	西側敷地にキッズ・プラザを設けなければ、校舎を西側敷地に建てることではないか。 仮設校舎を建てるのではなく、はじめから西側敷地に新校舎を建てる検証もしてほしい。その場合、何年かかるかも確認してほしい。 また、新校舎の校庭を広く確保してほしい。	西側敷地に新校舎を配置する案も検討したが、教室の日当たりや風通し等を含め、良好な学習環境の確保が難しいことから、西側敷地に普通教室を配置した新校舎を設置することは難しいと考えている。 新校舎の校庭は可能な限り広く確保したい。